

第1回イノベータ講演会（1学年）

4月30日（木）6限 体育館にて、共愛学園前橋国際大学学長の大森昭生先生を講師に迎えて、「答えがないから面白い～課題研究の意義と進め方～」と題して第1回イノベータ講演会を実施しました。

前橋高校でのSSH活動によって身に付ける力と、大学や予測困難な時代に求められる力との関係性について、答えがない課題に主体的かつ協働的に取り組み、解決のための手段や方法を思考していくことの大切さを教えていただきました。具体的に、研究のプロセスである論文・プレゼンができるまでの流れや、課題研究のテーマ設定のポイントさらにデータや資料についての調査・分析や収集方法、客観的なエビデンスなどについて、実体験を交えながら詳しく教えていただきました。

講演後の質疑応答では、生徒からの質問もたくさんあり、とても有意義な講演会となりました。



グローバル教育研修報告会（1学年）

5月20日（水）6限 体育館にて、1年生を対象として「グローバル教育研修報告会」を行いました。昨年度実施の「グローバル始動人テイクオフ米国派遣事業」、「Oxbridge 研修」について、参加した2、3年生6名によりプロジェクターを使って報告が行われ、1年生の生徒は先輩の貴重な経験を興味深そうに聞き入っていました。



また、担当者より国際事業の「Oxbridge 研修」や「Global Studies Program」についての説明も行われ、質問力をICE評価できるワークシートを使って1年生はメモを真剣に取り、相互評価を行いました。

【ICE ルーブリック表（質的なルーブリック）】

項目	I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
質問力	○表面的な質問をすることができる。 例えば、以下のような質問 ・不明な事柄に関する質問 ・単発的な質問 ・確認のための質問 など	○報告内容に対する理解を深めるための、意図を持った質問をすることができる。 例えば、以下のような質問 ・批判的な質問 ・前提を吟味する質問 ・背景を探る質問 など	○報告内容を課題研究だけでなく、他の事への転用の可能性を探る質問をすることができる。 ○内容に対する新たな可能性を探る質問をすることができる。

過去に開発した教材・評価法等を Web 掲載しています！

過去に、本校のSSHで開発したクロスカリキュラムの授業実践の指導案や授業プリント、課題研究の評価ルーブリックや自己調整学習者のレジメなどを本校のホームページに掲載しています。中学・高校で活用ください。また、中学生、高校生のみならず是非取り組んでみてください。詳しくは、同じくホームページに掲載されている最新の報告書をご覧ください。 <https://maebashi-hs.gsn.ed.jp>

